

幸手市地域公共交通あり方検討会第1回会議

デマンド型乗合交通の乗降場所の考え方について

※会議後、書面により各委員からいただいた意見等

回答者7人

1 居住地側(住んでいる側)の乗降場所を設定するかどうか？

①乗降場所を「設定しない」(所定のエリア内ならどこでも乗降可) 1人

②乗降場所を「設定する」(設定した場所でのみ乗降可) 5人

《ご意見》

①を選択された方の御意見

- ・東中校区は、幸手市の約 3 分の 1 の地域だが、田畑が多く隣、近所も田畑に挟まれている状態。将来自分が利用するとしたら、資料 2 を参考に考え①を希望

②を選択された方の御意見

- ・歩行が困難な人⇒自宅前
- ・上記以外の人⇒乗降場所を設定。自宅から 200m(高齢者に合わせる)
- ・乗降場所を設定した方が移動に際して混乱等を回避出来る
- ・①東地域では自身を優先したい方が多くなると思われる
- ・設定された乗降場所乗り場へ行く
- ・予約の際伝えやすい。
- ・乗合になるため、(同乗者に)自宅を知られる事がないからよい

2 設定する場合、どのあたりに乗降場所を設定するか？

①集会所や公民館がある場所 1人

②選挙掲示板がある場所 1人

③ごみ集積所のある場所 0人

④その他(自宅からどれくらいの距離?) 2人

《ご意見》

- ・④について、ごみ集積所のある場所を基本に、高齢者の移動距離を考え場所の設定を考える

3 目的地側(お出かけ先)の停留所はどこに設定するか？

《ご意見》

- ・東中校区中心にデマンドタクシーを運行する場合、中央のバスへ乗継ぎが必要と考えられる。駅・病院・ドラッグストア・市役所・大型スーパー等、東中学校区には無い。唯一、ウェルス幸手を東中学校区に入るのでしたら、循環バス中央コースの運行時刻に合わせる事が重要になる
- ・旧デマンド交通と循環バスの実績とアンケート結果を参考に
 - 駅(幸手駅、東鷲宮駅、杉戸高野台駅)
 - 総合病院、病院、歯科医院、整形外科、眼科医院、耳鼻咽喉科医院
 - 市役所、ウェルス幸手、警察署、公民館、図書館
 - 大型商業施設、スーパー
- ・市民のアンケート等を参考に設定する
- ・ひとまず優先度の高い場所に設定
- ・全ての方々の希望目的地着なら一般タクシーと同じ。高齢の方々は病院・買い物が目的。
- ・幸手駅、杉戸高野台駅はどれだけの方が利用するのか
- ・駅から駅などの電車を利用する目的の方が利用するのではないか
- ・お店・病院等がよい

4 上記以外に関する意見

・運行区間について

○「地区内の居住地」⇔「地区内の目的地」(利用の多い施設等)

+ 中央コースとの乗り継ぎ地点※1

+ 他地区の主要な施設※2

+ 久喜市の東鷲宮駅・病院・商業施設※3

※1 主要な施設は乗換えなしで直接行けるようにする

※2 幸手警察署、幸手郵便局、権現堂、公民館(北・南・東)、牛村病院、堀中病院、さくら整形外科、幸手耳鼻咽喉科医院、むさしのメディカルクリニック等

※3 東鷲宮駅、矢作整形外科、東鷲宮病院、しらさきクリニック、新久喜総合病院、新井病院、おおぎや眼科、ベスタ東鷲宮等

○東エリア、西エリアの二つのエリアに分ける

それぞれのエリア内のみ運行可能(エリアを超えての運行はできない)。

ただし、下記共通ゾーンの目的地はそれぞれのエリアで利用できる。

○共通ゾーンの目的地を設ける

循環バス中央コースの特定のバス停

東エリアと西エリアの住民が共通的に利用する施設

(幸手市は中央地区に主要施設が集中しているため、幸手市の全住民が利用している)

【提案理由】

- ①中央地区の住民はデマンド交通が利用できないように見える
- ②また、循環バス中央コースのバス停まで遠く、歩いていけない住民がいる
- ③中央地区もデマンド交通の運行エリアに設定するのは不効率

・幸手市の公共交通全般について

幸手は車社会で、私も移動手段は車がメイン。そのため、個人的には公共交通＝高齢者向けの施策と捉えている(交通弱者は、車が運転できない未成年者も含まれるが、未成年者は、自転車利用が多い)。

一方で、幸手市地域公共交通計画を見ると、5つの方向性が示されており、方向性4として、「市民などが少しずつでもクルマだけに依存した外出スタイルを見直すよう促し」とあり、高齢者だけでなく、車社会からの脱却を目指そうとしていることが分かる。また、方向性1では、「将来にわたり、地域にふさわしい公共交通を持続します」とあることから、持続可能な公共交通とすることが最重要。

以前は、財源的な問題が議論される場面が多々あったが、近年は、運転手不足という問題も加わって、さらに難しい課題となっている。しかしながら、AIをはじめとしたデジタル技術の普及や日本版ライドシェアの解禁などの規制緩和なども進んできていることから、様々な方向から検討していく必要がある。

・中央コースについて

- 杉戸高野台駅東口バス停の新設
- 一方向から双方向への輸送転換(循環⇒往復)
- 東武団地から緑台1丁目へのバス停移転※個人宅前が嫌
- 通勤通学時間帯への運行拡大(上記2.の増便)※できないなら自治会で自主運行する
- (特に団地の方々にとっては)目的地へ行く良い場所に停留所があるため今のコースで良い
- 中央地域の場合は、(乗合型デマンドタクシーが)朝日バスの停留所をそのまま利用しているため良い